

第1学年 生活科学習指導案

は組 男子17名 女子18名 計35名
指 導 者 永 野 優 希

1 単 元 みんなで あそぼう

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、学校探検の活動等を通して、学校の施設の様子や学校生活のきまりやルールが分かり、落ち着いた学校生活を送ることができるようになってきている。また、休み時間や行事等で友達とかかわり合う中で、『もっとみんなと仲良くなりたい』『体を思いっきり動かして遊びたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、砂場遊びや公園遊び等の活動に、主体的・能動的に取り組ませる中で、『みんなと一緒に楽しく遊びたい』という思いや願いを達成していく楽しさを味わわせながら、自分の活動を連続・発展させようとする意欲を高める。同時に、これまでの経験を基に、諸感覚を使いながら自分なりに遊びを工夫したり、気付いたことを表現したりする力を培う。また、校内や公園内での遊び方に気付き、道具や公共施設の適切な使い方、準備や後始末の仕方等の習慣・技能を身に付けることができるようにする。さらには、これらの活動を通して、自分の取り組み方のよさや成長に気付かせることもねらっている。

なお、これらの活動は、『もっと生き物と仲良くなりたい』『生き物のお世話をしてみたい』という願いとして、「いきものとなかよし」の活動へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

遊びは、友達との間でそれぞれの考えややりたいことを出し合いながら、自分らしさを表現できるものである。また、思考と行動が未分化なこの時期の子どもたちにとって、身体全体を使って活動できる遊びは、諸感覚を使うことができ、自ら考え、判断し、行動する基盤となる力を培うことにつながる有効な方法であり、内容である。さらに、遊びを通して、充足感と何かをやったという達成感を味わうことができるものである。砂や土は、自分が思ったものを表現したり、作り直ししたりできる可塑性をもち、この期の子どもが没頭でき、その子なりの試行錯誤が生まれる素材である。公園は、遊び場としての遊具や利用する人々、施設、草花、生き物等、子どもを取り巻く環境の縮図であり、そこでの遊びを通して多くの学びが生まれる場所である。したがって、砂や土、公園といった身近なもので遊ぶ活動は、友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わいながら、自分なりに新たな遊びを見出すことができるものである。

このような身近なものを対象にした遊びに主体的に取り組み、活動で得た気づきを広げたり深めたりしながら、自分なりに新たな活動を見出すことができるようにするために、身体全体を使って遊ぶ活動から湧き出した思いや願いを基に、主体的な交流活動が生まれるようにしていきたい。

具体的には、まず、「さんぽにでかけよう」の活動で、『友達と一緒に仲良く遊びたい』という思いや願いをもつことができるようにするために、学校探検で見付けた校内の施設や遊具等へ散歩に出掛け、それらで自由に遊ぶ活動を設定したい。次に、散歩の活動で高まった思いや願いを基に、「すなばであそぼう」の活動へと展開し、砂や土で遊ぶ活動を設定したい。その際、『友達と砂や土で楽しく遊びたい』という思いや願いを連続・発展させるために、個々の思いや願いを共有させ、共通の思いや願いをもった子ども同士でのグループを作り、共有された思いや気づきを可視化し、新たな活動を見出す交流活動を設定したい。雨が降った際には、砂遊びにとらわれず、雨の日の遊び方について話し合い、室内遊びを通して、工夫をすれば、雨の日でも友達と楽しく遊ぶことができることに気付かせていきたい。そして、活動場所を学校から地域へと広げ、「こうえんであそぼう」の活動へと発展する。公園遊びでは、『公園で友達と仲良く遊びたい』という思いや願いを連続・発展させるために、公園で遊ぶ活動を繰り返し設定していきたい。その際、公園で遊ぶ活

動の前後に次の活動を見出すための交流活動を設定していきたい。最後に、夏休み前に「もうすぐなつやすみ」の活動を設定し、これまでの学習を振り返り、家庭や地域の生活への意欲を高めながらめあてをもった生活ができるようにするために、夏休みの計画について話し合わせていきたい。

なお、活動の展開においては、一人一人の実態に応じて支援し、互いのよさに触れ合う場を設定したり、学習したことを生かせるような教師の働きかけを行ったりしながら、子どもの思いや願いが連続・発展するようにしたい。

このような活動を通して、子どもたちは活動に没頭し、活動に対する成就感や満足感を味わうとともに、自分のよさや成長を実感し、自分への自信と自分の生活をこれまで以上によりよくしていくとする意欲を高めることができる。

(3) 子どもの実態(対象者 は組 35名 数値は延べ人数)

<p><砂遊びの経験> ・ある…35名 ・ない…0名</p> <p><砂で作った物>(複数回答) ・山…30名 ・川…27名 ・お団子…21名 ・トンネル…19名 ・ケーキ…17名 ・お城…16名 ・家…10名 ・穴…4名</p> <p><砂遊びで気を付けること>(複数回答) ・仲良く遊ぶ…29名 ・砂をかけない…29名 ・譲り合う…25名 ・道具を投げない…20名 ・片付け…13名</p> <p><公園遊びの経験> ・ある…35名 ・ない…0名</p> <p><公園遊びで気を付けること>(複数回答) ・独り占めしない…31名 ・順番を守る…25名 ・危ないことをしない…20名 ・飛び出さない…16名 ・一人で行かない…11名 ・無回答…1名</p> <p><好きな外遊び>(複数回答) ・遊具…30名 ・おにごっこ…27名 ・かくれんぼ…25名 ・かけっこ…18名 ・ボール…17名 ・砂場…15名 ・ごっこ遊び場…3名</p> <p><好きな室内遊び>(複数回答) ・折り紙…32名 ・お絵描き…24名 ・工作…19名 ・積み木やブロック…16名 ・ごっこ遊び…5名</p>	<p>全ての子どもが、砂場で山や川、お団子等、様々な物に見立てて物を作った経験があるが、それらは単体であるものが多い。そこで、互いの作品をつなげたり、合わせたりする活動を取り入れ、友達と協力することで新たな物を生み出せることに気付かせていく必要がある。また、片付けの必要性や仕方を具体的に指導する必要がある。公園遊びは、全ての子どもが公園遊びを経験している。そこで、これまでの経験を生かしながら、公共物や公共施設の適切な使い方や安全面について考えさせたい。</p> <p>遊び方については、これまでに様々な遊びを経験していることが分かった。そこで、これまでの経験を生かしながら、どうしたら友達ともっと楽しく遊ぶことができるか話し合わせたり、教師が子どもと一緒に遊ぶ中で新しい遊びを紹介し、それを基に自</p>
--	--

分たちなりに遊びを工夫したりすることができるようにしていきたい。活動中は、教師が積極的に子どもの遊びの中に入り、タイミングを見て、具体的に指導していくようにする。なお、この時期は幼児期の自己中心性が残っており、活動中は些細なことでトラブルが起きることが予想される。教師は、けんかも成長するための学びの過程だと捉え、双方の考えを十分聞いて共感した上で、次からどのように行動したり、発言したりしたらいいか考えられるように励ますようにする。

(4) 指導上の留意点

- ア 「さんぽにでかけよう」の活動では、『友達と仲良く遊びたい』という思いや願いを高めるために、校内の遊具や施設、自然等で遊ぶ活動を設定したい。また、身近な自然を利用した遊びに関心をもたせるために、「何に見えるかな。」と問いかけ、気付いたことを子どもなりの表現でたどることができるようになる。そして、それを交流させ、見立てて遊ぶ楽しさに気付かせていきたい。
- イ 「すなばであそぼう」の活動では、子どもが活動にじっくりと取り組み、諸感覚を使って、試行錯誤しながら活動できるように、図画工作科の「ようこそすなのくにへ」と合科的に扱い、砂や土を使ってたっぷり遊べる時間を設定したい。また、砂や土への気付きやこれまでの砂遊びの経験を生かし、活動の内容を発展させていくために、互いの作品をつなげたり、何かに見立てたりする活動を取り入れていきたい。そして、そこから湧き出る『友達と協力してもっと楽しいものを作りたい』という思いや願いから、共通の思いや願いをもった子ども同士でのグループをつくり、それまでの活動の様子や作品の写真、気付きを書いたカード等を板書の中に

取り入れ、それらを基にした交流活動を展開していきたい。なお、雨が降った際には、教師が提示した身近なものを利用したおもちゃ遊びから始めさせる。そして、自分なりに工夫しながら新たな遊びを見出せるようにするために、もっと自分たちでできる楽しい遊びはないか問いかけ、思いや願いが共通した子どもが共に交流しながら活動できるような場作りをしていきたい。

ウ 「こうえんであそぼう」の活動では、友達とのかかわり合いを深め、公園の利用の仕方に気付いたり、新たな遊びを見出したりすることができるようにするために、繰り返し公園に出かける活動の前後に、できたことやもっとやりたいことを伝え合う交流活動を設定していきたい。その際、公園内や公園までの経路のマップに、気付いたことを書いたカードを貼り付ける活動を設定し、どんな場所で、どんなことに気を付ければよいか、友達との交流を通しながら考えさせていきたい。また、「どうしたらもっとおもしろくなるかな。」と問いかけ、遊びの約束やルールを変えることで、新たな遊びが生まれることに気付かせていきたい。

エ 「もうすぐなつやすみ」の活動では、めあてをもって夏休みを送ることができるようにするために、これまでの学習で分かったことやできるようになったことを振り返らせ、夏休みも継続してできることはないかを交流活動を通して見付けることができるようにしたい。

3 目 標

- (1) 『もっとみんなと仲良くなりたい』『思い切り体を動かして友達と遊びたい』という思いや願いを基に、校内での散歩、砂や土遊び、公園遊び等に進んで取り組むことができる。
- (2) これまでの遊びの経験や友達との交流を基に、試行錯誤しながら学校内の遊びや公園での遊びを工夫したり、友達とかかわり合ったりしながら、自分なりの遊びを見出すことができる。また、自分が思ったことや感じたことを絵や言葉等で表現することができる。
- (3) 砂や土を使った遊び方、公園の利用の仕方等に気付くとともに、後始末や安全な歩行等の習慣・技能を身に付けることができる。また、友達と仲良くかかわることができた自分のよさに気付くことができる。

4 指導計画（全18時間）

活動する楽しさ	活動名 (思いの連続と気付きの様相)	主な学習活動 (時間)	学習形態・環境構成 教師の具体的な働きかけ
○自然にある面白いものを見付けることができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校には遊べる場所がたくさんあるね。 ・みんなと一緒に遊びたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校探検で見つけた遊具や施設へ散歩に出掛けて友達と自由に遊ぶ。(1) 気付いたことをカードにかいて発表する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・『友達と一緒に遊びたい』という思いや願いを高めるために、校内で自由に遊ぶ時間を設定する。 ・砂場遊びへの意欲を高めるために、砂場での活動の時間を設定する。 ・砂や土にたっぷりとかかわることができるようにするために、図画工作科「ようこそすなのくにへ」の学習と合科的に扱う。 ・友達と共に活動する楽しさに気付かせるために、互いの作品をつなげたり、合わせたりする。 ・同じ思いや願いをもった子ども同士が共に活動したり交流したりすることができるようにするために、思いや願いに応じた場作りをする。 ・公園での新たな遊びを見出すために、公園遊びの活動の前後に、できたことややりたいことを互いに伝え合う交流活動を設定する。 ・公園の適切な利用の仕方に気付かせるために、遊んでいて困ったことやどんな人が利用していたか想起させ、利用の仕方を話し合わせる。 ・めあてをもって意欲的に夏休みを過ごせるようにするために、できたことや気付いたことを伝え合い、認め合う場を設定する。
○遊具や施設を使った遊びを見付ける楽しさ	さんぽにでかけよう (2時間)		
○身体いっぱい使って遊ぶことができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と体いっぱい使ってもっと遊びたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験を生かしながら、思い思いに砂や土で遊ぶ。(2) 	
○友達と協力して作ることができる楽しさ	すなばであそぼう (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して、砂場で楽しく遊ぶ。＜本時＞(2/2) 室内で、友達と遊ぶ。(2) 	
○新たな遊びを見出すことができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・砂や土って面白いな。 ・みんなで協力すると、もっと楽しく遊べるんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅近くの公園との違いを見付けたり、自由に遊んだりする。(2) 	
○今後の生活について考えたり、表現したりできる楽しさ	こうえんであそぼう (9時間)	<ul style="list-style-type: none"> 公園での遊びの計画や約束を話し合う。(1) 計画を基に公園で友達と楽しく遊ぶ。(5) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・公園でも仲良く遊べたよ。 ・みんなで楽しい遊びを見付けることができたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の秘密を見付けたり、楽しかったことをカードにかいて発表したりする。(1) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・もうすぐ夏休みだね。 ・どんなことをしようかな。 		
	もうすぐなつやすみ (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの生活について話し合う。(1) 	

5 本 時 (6 / 18)

(1) 目 標

『友達と一緒に砂や土で思いっきり遊びたいな』という思いや願いを基に、進んで砂や土で遊ぶ中で、これまでの経験や友達との交流を生かしながら自分なりに工夫して作品を作ったり遊んだりするとともに、友達と協力するよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、方向性の決定を目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、子どもの作りたいものに応じたグループによる場作りを行い、思いや願いが共通した子ども同士で活動できるようにする。その際、「○○さんは、～～で困っているんだけど、どうしたらいいかな。」と問いかけ、思いや願いを共有させ、それらと気付きを関係付けながら新たな活動が見出せるようにする。

(3) 準 備

材料 (砂や土、水等)、道具 (スコップ、バケツ、手押し車等)、ラジカセ、移動黒板 等

(4) 実 際

学習過程	主 な 学 習 活 動	時間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ		
	<p>本時が始まる前までに、子どもたちは自分の力で身支度を整えて砂場の周りに集まるようにする。</p>				
意欲をもつ	<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂や土で遊ぶと楽しいな。 ・山と川を組み合わせたらおもしろそう。 <p>たのしい「1のはランド」をつくろう。</p>	(分) 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 砂遊びへの思いや願いを高めるために、これまでの作品の写真の写真を基に振り返り、それらを組み合わせると何に見えるか問いかける。 ○ 前時までの思いや願いが連続・発展するよう、前時の作品を残しておく。 		
	<p>2 これまでの作品を生かしながら、本時で作りたいものを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前よりも大きな山を作って、桜島みたいにしたいな。 ・川をもっと長くして、1のはランドを一周できるようにしたいな。 	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いや願いが共通した子ども同士で活動できるようにするために、本時で作りたいものを伝え合い、それを基にグループを作る。 		
活動する	<p>3 自分なりに工夫しながら砂や土で遊ぶ。</p> <p>前時までの活動 山 川 お団子 ケーキ トンネル 穴</p> <p>思いを共有した小集団による交流活動</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>思いや願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川をもっと長くしたいな。 ・友達の山とぶつかったよ、どうすればいいかな。 ・よく流れるようにしたいな。 </td> <td> <p>気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分担したら、一度にいろいろできるね。 ・山を横から掘るとトンネルができたよ。 ・高いところから水を流すとよく流れていくよ。 </td> </tr> </table> <p>新たに見出した活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と掘る場所を分担しよう。 ・山と川をトンネルにしてみよう。 ・川の最初の部分は高さを高くしよう。 	<p>思いや願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川をもっと長くしたいな。 ・友達の山とぶつかったよ、どうすればいいかな。 ・よく流れるようにしたいな。 	<p>気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分担したら、一度にいろいろできるね。 ・山を横から掘るとトンネルができたよ。 ・高いところから水を流すとよく流れていくよ。 	28	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な工夫や砂や土の面白さを共有できるようにするために、本時で見取った思いや気付き等をカードに書き、小黒板に貼り付けていく。 ○ 友達との交流活動から次の活動が見出すことができるようにするために、砂遊びの中に、思いや願いに応じた交流活動を設定する。その際、「～するにはどうしたらいいかな。」と問いかけ、思いや願いと気付きを関係付けることができるようにする。 ○ 個への対応 <p>(1) 進んで工夫しながら遊んでいる子ども その工夫や面白さを意味付けたり価値付けたりするとともに、そのよさを周囲にも広げるようにする。</p> <p>(2) 友達とかかわりながら遊んでいる子ども 協力している取り組み方のよさを価値付けたり、全体に紹介したりする。</p> <p>(3) 活動に戸惑っている子ども 戸惑っている原因を共に考え、友達と交流させたり教師が共に活動したりして、自ら活動できるように支援する。</p>
	<p>思いや願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川をもっと長くしたいな。 ・友達の山とぶつかったよ、どうすればいいかな。 ・よく流れるようにしたいな。 	<p>気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分担したら、一度にいろいろできるね。 ・山を横から掘るとトンネルができたよ。 ・高いところから水を流すとよく流れていくよ。 			
<p>4 道具の後始末をする。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、できたことや楽しかったことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力すると、長くてもおもしろい川が作れてうれしかったよ！ ・友達と一緒にもっと遊びたいな。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進んで後始末に取り組むことができるように、音楽をかける。 ○ 友達と協力して取り組んだことへの成就感を味わわせるために、遊びの中でできたことや楽しかったこと等を発表させ、意味付けたり価値付けたりする。 			
振り返る					